

始まります！

未来の 安全安心

モバイルでもわかりやすいトリセツにしたい！

たった一つのQRコードで解決！

点検や寿命通知を
どうするか！

ロット細分化すると
サイトとデータ
管理が大変！

リコールテスト
のできる
リコール対策は！

これらはIEC/IEEE 82079-1:2019（使用情報に関する国際規格）への対応条件です。出荷後の品質保証は未来の責任であり、JIS化も進行中です。法規制の強化により、事業者責任は大きく変わろうとしています。

- ・ 現在生産中の製品も対象となる可能性が極めて高いです。
- ・ 今、何をどうするかを決めるのはあなたです。



一般社団法人APL-Japan



世界や国内で、科学的根拠のあるリコール手段が安全品質の重要な取り組みになりました。



製品のQRコードでわかりやすいトリセツがいつでも見れて、リコールの確認も可能に！

法律

- 製品安全は経済産業省の消費生活用製品の定義に注目してください。この定義の元、日用品、雑貨、ガス石油、電気製品など他、業務用製品も特定条件下で規制対象となります。
- PL法は施行から30年経ちEUから大きな変更が始まります。国内も一気に変わる可能性が高いのです。

技術基準

- IEC/IEEE82079-1:2019は、製品の取扱説明書や関連する使用情報の品質を向上させるための規格です。
- 安全性向上、誤使用防止、ユーザビリティの向上に貢献し、企業のリスク管理にも役立ちます。
- 特に、製品トレーサビリティやリコール対策を考える上でも、この規格の適用は重要です。

UI/UX



出荷されると、様々な販路で販売利用される製品、業務用も市場流通する物が多くあります。トラブル対応、リコールにも深く関わります。

品質異常が発見されたら原因究明と再発防止に重要な取り組みです。サイレントチェンジ（作業や納品時に知らされていない仕様変更）対策になります。

商品コードと個人情報とトレーサビリティの課題に

取引関係のない事業者間、自動認識システムのない小規模事業者、海外事業者などでは異なる商品コードがトレーサビリティの課題になります。

さらに消費者とのリスクコミュニケーションは個人情報取得の壁があります。

日本語の通用しない自動認識流通システム



個人情報登録を嫌うことはあなたが一番知ってます！

SCODT cloudは個人情報に依存せず、今必要な情報を無料アプリで直接伝えることができます。

いつ、どこで、どのモバイルでアクセスしたのか、その記録が様々な場面で活用できます。

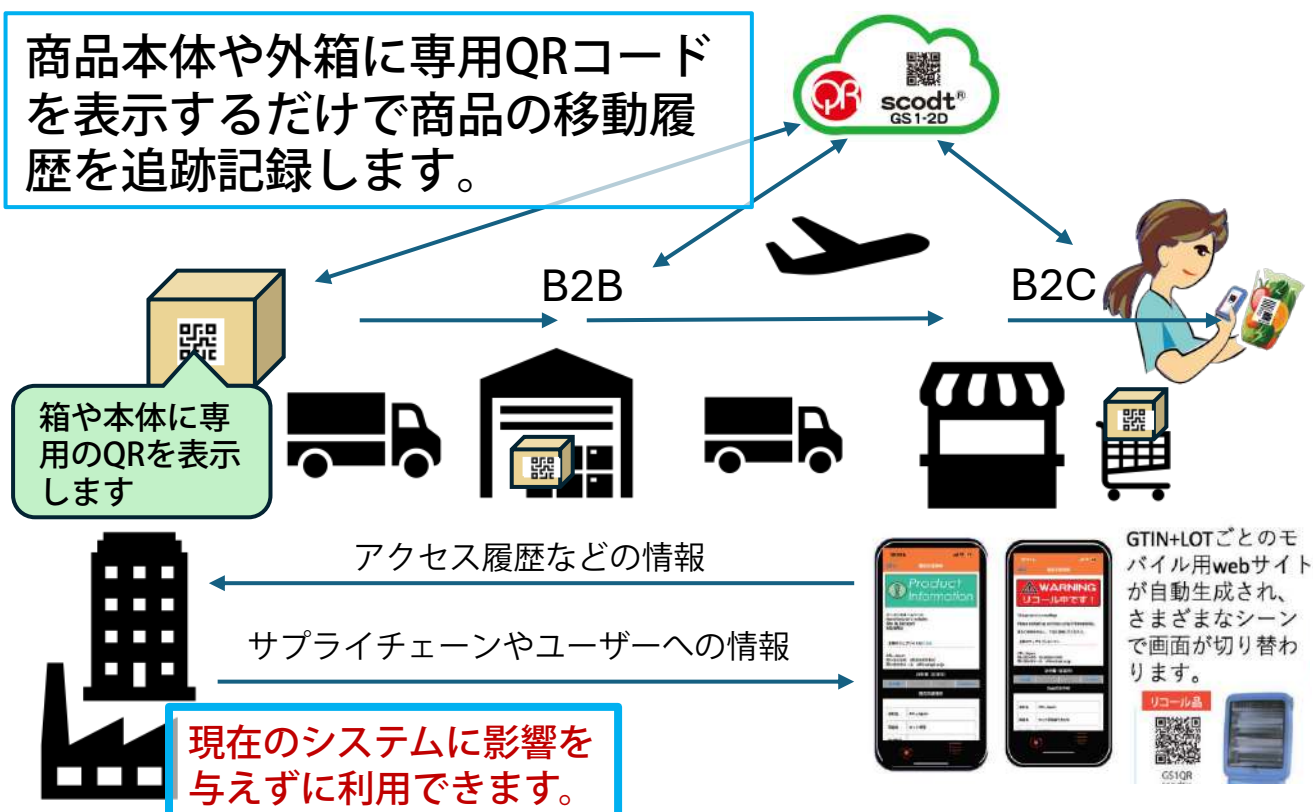


<https://scodt.jp>



製品仕入・出荷時、店舗POS、購入者、使用者の端末のアクセス履歴を無料アプリで集積します。言語などに依存しないので、世界のどこからでもアクセスしたモバイルを特定しさまざまなマーケティングからアフターサービスのDXが実現します。

商品本体や外箱に専用QRコードを表示するだけで商品の移動履歴を追跡記録します。



ロット単位の商品コードを組み込んだQRにアクセスすることで、端末IDの履歴を集積します。安全に関わる情報をシーンごとに切り替え、寿命やリコールの確実な連絡手段が確立します。

さまざまなニーズに対応できます。

製造、輸入販売、通販、EC事業者様など

販売した後の苦情やトラブル
対応負担が軽減します。

- 販路拡大や競合先との差別化をしたい。
- 説明書作成から製品安全対策、システム構築、アフターフォローの費用や人手が足りない。
- 万一自主回収やリコールになったら保険だけでは足りない。



- 商品コードとLotコードをシステムに登録すると**専用サイトが自動生成！**
- 寿命終了時に**寿命終了のお知らせ画面へ自動で切り替え。**
- 取説などの**改善・情報の更新をアドバイス。**
- 自主回収、リコール、事故対応なども**導入時のコンサル**でご指導し、システムを利用する間はいつでも相談を受けられます。

今後はアプリやQRで商品使用情報を発信するためのJIS化が進みます。
流通標準のQRコードでリコール通知が直ちにできることは**大手の流通小売**に対して**大きなアピール**になります。

施設・住宅メーカーや多くの品種を扱う事業者様の仕入れ品などの品質管理について



多種多様な製品を扱う、特に食品を扱う場合は規制法などの大きな動きがあります。

施設園芸の建屋と設備一覧

分類	設備・構造	説明
建屋構造	温室フレーム構造	金属製（アルミまたはスチール）の骨組み、三角トラス構造で強度確保。
建屋構造	外装材	透明パネル（強化ガラスまたはポリカーボネート）使用。
建屋構造	出入口	密閉性の高いガラス扉。
内部設備	栽培ベッド	土耕栽培用の高床ベッドで3列配置。
内部設備	作物	葉菜類または果菜類（例：トマト、レタスなど）。
環境制御システム	換気ファン（強制換気）	背面壁上部に設置された大型換気ファン。
環境制御システム	加温装置（追温機）	天井近くの赤外線ヒーターまたはホットパイプ式。
環境制御システム	照明	天井から吊り下げたLED照明器具（育成増光用）。
環境制御システム	自動環境制御装置	温度・湿度・照度・CO ₂ 濃度などの監視・制御を行う。
灌水・養液設備	貯水タンク	灌水用または液肥希釈用の貯水タンク。
灌水・養液設備	養液タンク	液肥投入またはpH/EC調整用の養液タンク。
灌水・養液設備	配管システム	灌水チューブがベッドごとに分岐配管。
灌水・養液設備	点滴灌水システム	作物ごとに点滴ノズルを設置し、効率的な水分供給。

顧客のニーズ、条件、環境などに合わせて膨大な数の資機材、製品を利用し引渡しします。自社製品も含め、それらの維持管理については、**人的サポート**が伴い、各資機材サプライヤーも含め、**人手不足、ベテランに依存した部分が大きな課題**になっています。
この植物工場でも環境維持は**生産性に深く関わり時に重大事故**にもなります。
その**部材管理**にこのシステムを利用することで、さまざまな**効率化**が進みます。

取り組みによる効果事例

事例1：製品の信頼性向上

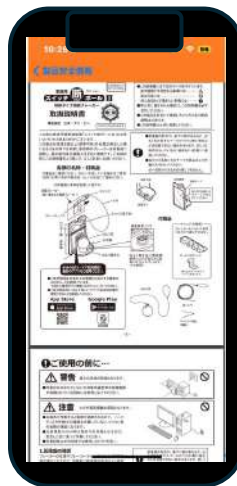
組み立て不具合によるトラブルを回避するため、捕獲器に取説配信用のQRコード金属タグを付け販売している。これにより誤使用トラブルが無くなり、模倣品の販売が増える中、製品の信頼性が評価され行政機関での導入や大手ホームセンターの取引が増えた。さらに、年度末には警察からQRのアクセス履歴情報の提出を要請されている。



野生動物用捕獲器

事例2：国の助成金獲得事例

本体が小さく品質表示スペースがないため、国の認証を得るためにSCODTのQRコードを表示した。取扱説明書の閲覧、寿命やリコールの通知ができることが認証機関に評価され「消防防災製品等推奨品」の認証を得た。10年間で100万台程度の販売実績があり、その間のクレームはない。



簡易感震ブレイカー

事例3：リコール成功事例

輸入された製品の一部を仕入れたカタログ通販商社がSCODTを採用し、製品にQRコードを表示して販売した。その後、該当品の欠陥が判明し輸入元が倒産、そのため通販商社よりリコール対応の相談を受けアクセス画面をリコール対応に切り替えプッシュ通知を3か月で3回行った。その結果、3か月で80%の回収が終了し事故は起きなかった。

プッシュ通知で知らせる！



自社対応
サイトに
リンク

アクセス履歴を利用し、
個人情報に依存しない
プッシュ通知の併用



中国製カーボンヒーター

よくある質問

安全点検アプリSCODT（すこどっと）®は

製品に流通システム自動認識用QRコードを付け、読み取ることで「取扱説明書」「寿命・点検時期」「リコール通知」などの画面に自動で切り替わるクラウドサービスです。この情報を専用アプリで製品を手元にある仕入れ、販売、購入利用する方が閲覧することで、現在B2Cトレーサビリティを実証できている世界でも唯一のクラウドサービスです。これにより事業者側の出荷時管理と、消費者向けアフターサービスを一体化し、ノーコードで誰でも簡単に今すぐ利用できます。

1 どのような業種に使われているのか

- ・ 家電、住宅設備、農業資機材、食品（カット野菜、レトルト等）など。
- ・ B2B／B2C問わず、全ての業種で活用可能。

2 GS1と関係はあるのか

- ・ GTINやロット番号で構成されるGS1 2Dコード（GS1QR）に対応。
- ・ 「GS1Japan Handbook2024～2025」 P.12～16に掲載。

3 SCODTの特長は

- ・ 消費者がQRを読むと製品個別の情報が自動切替で表示。
- ・ 消費者のアクション履歴（閲覧日時など）を記録。
- ・ 出荷後も製品ごとに「通知の確実性」が担保される。

4 他システム（DPPやGS1 Digital Link等）との違いは

- ・ DPPやGS1 Digital Linkは静的リンクが中心で通知機能はなし。
- ・ SCODTは通知型（動的）で、使用期限やリコールの通知が可能。

5 個人情報が必要か

- ・ 不要。QRの読み取りログだけで個別対応が可能。
- ・ プライバシー保護と実用性を両立。

6 導入のための準備やコストは

- ・ QRコードを印刷するプリンターと、製品にGS1QRコードを表示するラベルなど。
- ・ クラウド利用料は企業規模に応じたサブスクリプション体系。

7 SCODT Cloudの提供主体は

- ・ 一般社団法人APL-Japanが普及推進。
- ・ システム開発と運用維持管理はTDNインターナショナル株式会社。
- ・ 要素技術特許について

https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=201803019573196358&rel=1

8 将来的な展開は

- ・ 海外展開を前提とし、米国のFSMA204や欧州の新PL法にも対応。
- ・ 日本国内でもJIS改訂と連携して普及を目指す。

ご利用のご相談から導入まで（契約までは無料です）



<https://apl.or.jp/?p=6037>

1

ご相談申し込み

商品などの**安全安心**に関するどんなことでも**ご相談（無料）**ください。

知人からの紹介、ネットで知った、などなんでも結構です。

申し込みは事務局まで電話、FAX、フォームでお気軽にお知らせください。

2

ご相談

説明書や商品紹介の情報、不具合時の対応、売り込みのためのことなど、**我が国では具体的な対策をご指導できる業界などの垣根を越えた団体**です。

国の安全規制法やPL法なども大きく変わります。

3

お試し

ご相談に対し、このサービスに関心を持っていただけましたら**ワークショップ**として**無料**でお試しいたできます。

zoomで画面共有し、御社の商品の見本QRを作り、アクセスいただいた記録、画面切り替えなどを体験いただけます。

4

申し込み

お試し後、ご利用をご希望の場合は、重要事項などの説明とともに、申し込みの手続きをご案内します。

5

利用開始

申し込み手続きが完了すると、事務局より**ID/PWをお申し込み書記載の住所に郵送**いたします。

届いたことを確認させていただき、利用開始のzoom打ち合わせ日程を確認させていただきます。

6

サポート

ご使用開始から3か月、概ね月2回ほどのzoomによる例えば**取説や本体表示などの点検、社員の方のご指導**などを行います。特に今は社長様の責任が大きく問われ、一方、この取り組みを利用し国の表彰制度を利用し、ブランドを高められます。

取り組みのゴールとして、ぜひ経済産業省の**製品安全対策優良企業表彰**を目指してください。当団体では多くの企業の受賞を支援しています。



https://www.meti.go.jp/product_safety/ps-award/

海外で始まっているのは「**今すぐリコールテストができるか？**」です。
そのための**B2Cトレーサビリティ**が重要になりました。
日本もいつ同様の法律が変わるのか、**PL法も含め今何をするのか**を問われています。

生産者、食品やそれに関
わる流通・加工販売者の
皆様に！



大手小売では2次元バーコードにGTIN・消費期限・LOTを入れることになりました。



どれほど優れた製品でも、**トラブルは避けられません**。海外ではPL法が大きく改正されつつあり、企業には**販売後リスクへの対応**が求められています。
品質管理にリコール対応まで含めた**科学的根拠の明確なトレーサビリティ**を組み込み、「見える」製品安全体制を構築しましょう。
食品・産業機械・小売・物流などで活用されている「最新PL対策」は、**社内体制の見直しと販売後コストの削減、さらに継続的なモニタリング**を実現します。

■未来の安全安心サービス（税込・導入サポート含めた年間費用）

従業員数	システム利用料	R7年度IT導入補助金
10名未満	13万2千円	対象外
10～100名未満	88万円	補助金利用により44万円
100名以上	198万円	申請中

説明会開催中



<https://apl.or.jp/?p=6037>



一般社団法人 **APL-Japan**

本部：〒173-0013 東京都板橋区氷川町47-4 アビタシオンK 1F
事務局：〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町35-28
TEL：050-6865-5180 FAX：022-247-8042
Email office@apl.or.jp